

## あ と が き

核データ研究会の後始末、国際会議の準備などマンパワーの要する仕事が続き、本号の発行がつい四月にずれ込んでしまいました。読者の皆さんごめんなさい。また執筆者の皆さんがお忙しい中で早々とお送りいただいた原稿をすっかり寝かしてしまい、まことに申し訳なく思っております。はじめの企画では、本号は国際会議特集を組むつもりでいたのですが、タイミングが合わず、いつものようになってしまったのは残念なことです。

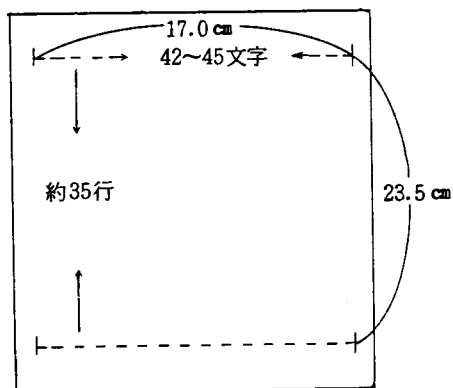
四月はまた人事の季節です。われわれの周りでもリタイヤあり、管理業務についたりするなど、人の動きがあります。本号に載った吉田さんのレポートのReich氏の話のように退職後も「個人」の資格で仕事が続けられるというのはとてもよいことではないでしょうか。ある人が抜けると、一つの仕事の終えんにつながることもあるからです。その仕事をはじめはその学問分野の「流行」だったかも知れませんが、時と共に「流行」からはずれてゆけば、当然跡を継ぐ人もいなくなります。基礎的な核データの測定などという仕事もいずれは・・・、という感じがしないでもありません。シグマ委員会がその活動の一つとして、こうした仕事の継続を支援し、若い人材の参加を各方面に働きかけることはきわめて大切ですが、この「核データニュース」もそのお役に立てば幸いです。どうか魅力ある原稿をお寄せくださるようお願いいたします。(喜多尾憲助)

最近の目覚ましいワープロの普及によりまして原稿もワープロ使用のものが増えてきましたので、28号より編集委員の労力削減及び校正ミス防止のためにも、出来るだけワープロの原稿を執筆者にお願いすることになりました。その規格は下図に示す様ですのでワープロ使用の際は宜しく願います。

(高野 秀機)

### 編集委員

浅見 哲夫	(委員長・原研)
喜多尾 憲助	(放 医 研)
高野 秀機	(原 研)
中川 庸雄	(原 研)
吉田 正	( NAIG )



ワープロによる原稿の規格